

高知県公立大学法人

平成27年度 業務実績評価書

平成28年8月

高知県公立大学法人評価委員会

第1 評価の基本的な考え方

高知県公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条第1項及び第2項の規定に基づき、高知県公立大学法人（以下「法人」という。）の平成27年度における業務の実績について、以下の基本的な考え方により評価を行った。

評価の実施に当たっては、法人の当該事業年度における業務の実績及び自己点検・評価を内容とする業務実績報告書及び法人への聴取等に基づき調査・分析を行うとともに、その結果を踏まえて、「項目別評価」及び「全体評価」を行う。

1 項目別評価

評価委員会は、次の事項（以下、大項目という。）ごとに、中期計画の達成に向けた業務の進捗状況を勘案して、5段階により評価するとともに、その評価理由を明らかにする。なお、教育研究については、その特性に配慮し、専門的な観点からの評価は行わず、事後の外形的な進捗状況の評価を行う。

〔大項目〕

①-1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置（高知県立大学及び高知短期大学）

②-2 同上 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置（ ” ）

③-3 同上 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置（ ” ）

①-2 同上 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置（高知工科大学）

②-2 同上 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置（ ” ）

③-2 同上 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置（ ” ）

④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

⑤財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

⑥教育及び研究並びに組織及び運営の状況についての自己点検及び評価並びに当該状況に係る情報提供に関する目標を達成するための措置

⑦その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置

[5段階]

- 5 : 中期計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である。
- 4 : 中期計画の達成に向け順調に進捗している。
- 3 : 中期計画の達成に向けおおむね順調に進捗している。
- 2 : 中期計画の達成に向け進捗がやや遅れている。
- 1 : 中期計画の達成に向け進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務実績の全体について、記述式により総合的な評価を行う。また、必要がある場合は、法人に対する業務運営の改善その他の勧告事項を記載する。

高知県公立大学法人評価委員会委員

| 区分 | 氏名 | 役職名 |
|-----|-------|-------------------|
| 委員長 | 宮田 速雄 | 株式会社高知新聞社 代表取締役社長 |
| 委員 | 森下 勝彦 | 株式会社高知銀行 取締役頭取 |
| 委員 | 木村 靖二 | 東京大学 名誉教授 |
| 委員 | 寺田 覚 | 公認会計士・税理士 |
| 委員 | 濱中 俊一 | 高知工業高等専門学校 校長 |

第2 評価の結果

1 全体評価

高知県公立大学法人は、高知県立大学と高知短期大学の自主性・自立性を高め、社会が求める教育・研究の高度化に対応するとともに、大学の個性化を進め、もって大学の社会への貢献を促進することと併せ、大学運営の効率化及び第三者評価に基づく運営の改善など、県民と社会に対する説明責任を果たすことを目的として、平成23年4月に設立された。

平成27年4月には、公立大学法人高知工科大学と法人統合を行い、高知県立大学、高知工科大学及び高知短期大学の3大学を一つの法人のもとで運営することで、それぞれの大学の特性を生かしながら、大学間連携をより進め、教員や学生の相互交流の拡大などにより、より幅広く、質の高い教育研究や地域との連携、産学官連携などの取組を進めている。

平成27年度は、公立大学法人となってから5年目、法人統合を行って1年目であり、理事長及び学長のリーダーシップのもと、教育、研究及び社会貢献に関し積極的な取組を進めるとともに、業務運営の改善及び効率化についても、法人全体で推進している。

特筆すべき成果としては、高知県立大学においては、平成27年度入学生から、「域学共生」の理念のもと、地域学を学ぶ学部横断型のカリキュラムを実施し、地域の課題解決に貢献できる人材の育成などに取り組んでいること、科学研究費助成事業の申請において応募件数の増加に向けた取組を行い、高い採択率を維持していること、高知県の在宅療養を推進するために、「高知県中山間地域等訪問看護師育成事業」を開始し、訪問看護師の育成を積極的に行っていること、地域の課題解決や地域おこしなどに学生が主体的に取り組む「立志社中プロジェクト」に対し支援を行っていること、大学全体で、1年間の活動実績と次年度の活動方針を共有し、教育内容・方法などの改善に繋げている「アニュアルレビュー」について、認証評価で高い評価を受けていることなどが挙げられる。また、高知工科大学においては、グローバル人材の育成を推進するため、これまで取り組んでいる学生の海外研修のほかに、外国人と合宿形式で実施する英語力向上集中プログラムや海外大学の研究室に研究留学させるプログラムの実施を行っていることが挙げられており、その他の項目についても、年度計画を十分に実施していると認められ、全体として、中期計画の目標達成が期待されるものである。

2 項目別評価

| | | |
|---|-----------|-------------------------------------|
| <p>①-1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置 (高知県立大学及び高知短期大学)</p> | <p>評価</p> | <p>4 : 中期計画の達成に向け 順調に推移している</p> |
|---|-----------|-------------------------------------|

○実施状況の概要及び評価

学部横断型のカリキュラムである、域学共生プログラムを平成27年度入学生から開始し、地域での実習を行うとともに、今後円滑にプログラムを進めていくための体制や仕組みを確立している。また、このプログラムについては、内閣府などにおいて事例報告を行うなど、全国的にも注目される取組となっている。

看護学部、社会福祉学部、健康栄養学部においては、国家試験及び採用試験の結果の分析を踏まえて、様々な対策を実施しており、就職率及び国家試験合格率において、高い水準の実績を維持している。

今年度から文化学部新たに開設した、夜間主コースでは、文化総合系の3系10領域を中心とするカリキュラムを着実に実施している。

国内初となる国公立5大学による共同災害看護学専攻(5年一貫博士課程)について、取りまとめ大学としてプログラム全体の進行管理を行うとともに、5大学の強みと人材を活かした豊富な科目を提供している。

障害のある学生の情報を把握し、学生によるサポートを実施するとともに、研修会への参加や他大学での事例などの情報収集を行っている。

留学生の受け入れを実施し、学修支援を行うとともに、イベント等での日本人学生との交流を通じて、相互の異文化交流を促進している。

経済的に支援が必要な学生に対しては、教職員が連携し、授業料免除、奨学金などの制度を紹介し、在籍、卒業に繋げることができている。

学生の就職について、情報共有等を密に行い、適切な指導を行うことで、99.6%と過去5年間で最も高い就職率につなげている。また、就職意識を高めるために、1、2年生を対象にガイダンスなどを実施している。

高知短期大学においては、発展的解消に向けて、充実したカリキュラムを提供し、高知県立大学との単位互換の範囲を拡大しているとともに、地域と連携した教育プログラムとして、「高知学」などの科目を開講し、いの町などをフィールドに現地調査

などを行っている。

その他、永国寺キャンパスの新ネットワークを含めたネットワークシステムを構築し、教育環境の充実に努めているなど、教育の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

| | | |
|---|----|-------------------------|
| ②-1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置 (高知県立大学及び高知短期大学) | 評価 | 4 : 中期計画の達成に向け順調に推移している |
|---|----|-------------------------|

○実施状況の概要及び評価

科学研究費助成事業について、応募説明会を開催するなど、応募件数の増加に向けた取組を実施した結果、51件の応募から22件採択となり、昨年に引き続き高い採択率を維持している。また、看護学部においては、過去5年間の新規採択件数において、高齢看護学の分野で第1位、地域・老年看護学の分野で第2位など高い実績をあげている。

全学参加型の年次評価（アニュアルレビュー）を実施することで、1年間の活動実績と次年度の活動方針について共有し、教育研究内容等の改善に繋げている。

その他、職位に対する逆傾斜配分を実施し、若手研究者の育成を支援するなど、全体として研究の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

| | | |
|---|----|-------------------------|
| ③-1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置 (高知県立大学及び高知短期大学) | 評価 | 4 : 中期計画の達成に向け順調に推移している |
|---|----|-------------------------|

○実施状況の概要及び評価

県民、地域の課題やニーズに円滑に対応できるよう、地域連携課を新設し、域学共生コーディネーターを配置している。

訪問看護提供体制を強化し、高知県の在宅療養を推進するため、高知県からの寄附講座として「高知県中山間地域等訪問看護師育成事業」を開始し、中山間地域新任訪問看護師6人と高知県内全域を対象とした看護師5人を育成している。また、土佐市

との連携事業「とさっ子健診プロジェクト」「土佐市地域ケア会議推進プロジェクト」を実施し、健康啓発、高齢者の介護予防に成果をあげている。

高知医療センターと連携した合同災害訓練を実施し、約 400 人の学生が避難する側、支援する側それぞれの体験を行うことにより、防災意識の向上に努めている。

学生が主体的に地域住民や行政と協働し、地域の課題解決や地域おこしなどに取り組む「立志社中プロジェクト」への支援を引き続き行っており、これらの取組については、全国的に高い評価を得ている。

海外の交流協定締結大学から留学生を受け入れるとともに、池キャンパスに日本人学生と外国人が入居し交流できる国際寮（仮称）の平成 29 年度供用開始に向けて、設計及び施工業者の選定を行っている。

その他、地域に開かれた大学として、リカレント講座、専門職対象講座を計 64 講座開講するなど、社会貢献の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

| | | |
|---|-----|-----------------------------|
| ①-2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置 (高知工科大学) | 評 価 | 4 : 中期計画の達成に向け 順調に推移している |
|---|-----|-----------------------------|

○実施状況の概要及び評価

マネジメント学部から改組した経済・マネジメント学群においては、平成 27 年度から入学定員を 100 人から 160 人に増員し、積極的に学生募集を行った結果、多くの志願者が集まり、意欲的な多数の学生を受け入れることができている。また、工学分野においては、エネルギー工学専攻を新たに設けている。

成績優秀者の学習意欲をさらに高めるための「KUT アドバンスプログラム」を着実に実施し、2 年生での研究室への早期配置などを行っている。また、一定の成績基準に満たない学生をリストアップし常に把握するなど、広く学生に対しフォローアップを行う体制を構築している。

学生の自主学習等の利便性を高めるため、学内にある複数のワークステーション室等のサーバ群を統一し、どの部屋からもアクセスできるようにするとともに、セキュリティレベルを高め、より安全な学習環境を提供している。

学生の英語学習に対する意識向上を図るため、例年実施している海外研修に加え、韓国人学生と合宿形式で実施する英語力向

上集中プログラムや、指導教員と親交のある海外の大学に研究留学させるプログラムを新たに実施し、学生を参加させている。

上記のほか、協定大学等から外国人学生を招き、国際サマースクールの開催、海外インターンシップなどの国際感覚を向上させる取組を続け、これらの海外研修等に要する学生の旅費の支援を行うとともに、危機管理体制の強化などのため、海外渡航・留学生の受け入れに関する危機管理研修を実施している。

支援の必要な学生を早期発見し、早期対応できるように、業務委託などを活用した相談窓口の設置や、教職員向けの研修を実施している。また、学生健康診断時に精神的健康調査を実施し、学生の状況を把握するとともに、対応が必要な学生に対しては面談等の対応を行っている。

学生の就職活動開始前の動機づけとして、大学説明会・情報交換会を開催するとともに、卒業生ネットワークを活用し、卒業生による小規模の業界研究セミナーを開催している。また、学生に県内企業の魅力を伝えるため、県内企業の協力による業界研究セミナーや企業見学バスツアーを実施している。

上記の活動のほか、積極的な就職支援を行い、学部、大学院を合わせて99.1%と継続して高い就職率を維持している。

課外活動の充実のため、継続して支援を行うとともに、完成した香美球場の供用を開始している。また、経済的に困窮した学生に対しては、授業料免除の支援を行っている。

優秀な留学生の獲得や大学の情報発信のため、海外から博士後期課程の論文審査委員を招く旅費を支援する制度を試行的に開始している。また、大学の研究室や研究分野などの英語表記一覧を作成し、海外大学や海外の教員等への広報に活用している。

その他、授業や課外活動における香美キャンパスと永国寺キャンパス間の移動の利便性の向上を図るため、連絡バスを導入し、学生のキャンパス間移動を支援（年間延べ7,757人が利用）しているなど、教育の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、全体として計画どおり順調に進捗していると評価できる。

| | | |
|---|----|-----------------------|
| ②-2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置 (高知工科大学) | 評価 | 4：中期計画の達成に向け順調に推移している |
|---|----|-----------------------|

○実施状況の概要及び評価

研究成果を積極的に学会誌等に発表するとともに、教員業績管理システムから教員ごとの論文データを収集するなど、研究機

関として積極的に論文を公表している。

若手研究者等による異分野領域の交流を促進するためのセミナーを開催し、研究者交流を促進している。また、高知大学医学部との医工連携交流会を引き続き開催するとともに、2つの共同研究契約につなげている。

研究アドバイザー等を活用し、異分野領域の研究課題について7件の採択につなげるとともに、他機関との研究者交流や国際的な研究交流により4件の競争的資金を獲得している。

外国人研究員の受入支援を強化し、有能な外国人研究者の滞在を促進するため、ゲストオフィスを整備し、10人の外国人研究者の利用に供している。

その他、年間4学期のうち1学期は授業のない学期とするサバティカルクオータ制度の周知を図り、教員の海外研究派遣を促進しているなど、全体として研究の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

| | | |
|---|-----|-----------------------------|
| ③-2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 社会貢献の質の向上に関する目標を達成するための措置 (高知工科大学) | 評 価 | 4 : 中期計画の達成に向け 順調に推移している |
|---|-----|-----------------------------|

○実施状況の概要及び評価

県内外でのビジネスマッチングイベントに参加し、受託・共同研究につながる案件を新たに3件発掘している。

地域貢献を促進するため、地域連携機構所属教員のほか、学群専任教員による地域貢献の取組について、地域連携強化資金制度で支援している。

香美キャンパスにある地域連携機構の一部機能を永国寺キャンパスへ移転し、研究シーズ・研究内容紹介や経営者トーク、土佐 MBA への参画など、高知県産学官民連携センターと連携した取組を実施している。

前年度に引き続き、地域住民との炊き出し訓練や防災運動会を実施し、地域と一体になった防災意識の向上を図っている。

その他、県内教育機関との連携を強化し、小・中・高校生を対象とした訪問教育や科学教室などを実施しているなど、社会貢献の質の向上に向けて着実に取り組んでいると認められることから、計画どおり順調に進捗していると評価できる。

| | | |
|-------------------------------|----|-----------------------|
| ④業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置 | 評価 | 4：中期計画の達成に向け順調に推移している |
|-------------------------------|----|-----------------------|

○実施状況の概要及び評価

法人統合後、理事長及び学長の権限について、適切に役割分担を行うとともに、法人全体に係る課題等について議論を行うため、理事長、学長、事務局長などで構成する法人内役員会を設置している。

高知県立大学においては、高知短期大学の後継となる文化学部夜間主コースを設置し、勤労学生に対する利便を図っている。また、高知工科大学においては、マネジメント学部から経済・マネジメント学群への改組など、教育研究組織についての見直しを行っている。

法人統合に伴い、人事給与システムや財務会計システムなど、各種システムの一元化を図り、効率的かつ効果的な事務処理を実施している。

その他、これまで異なっていた事務職員の評価制度を統一するなど、全体として計画どおり進捗していると評価できる。

| | | |
|--------------------------|----|-----------------------|
| ⑤財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 | 評価 | 4：中期計画の達成に向け順調に推移している |
|--------------------------|----|-----------------------|

○実施状況の概要及び評価

競争的外部資金を獲得するため、教員に対する情報発信や学内での説明会等を実施し、獲得に向けたサポート体制の充実を図っている。

インターネットバンキングを活用して、従来大学ごとの個別に行っていた支払業務を一元化している。また、予算の執行状況が迅速に把握できるシステムの運用を開始している。

その他、予算の執行状況を Web 上で即座に把握できるシステムを導入し、効果的かつ効率的な予算執行を行える体制を整備するなど、全体として計画どおり進捗していると評価できる。

| | | |
|--|----|-----------------------|
| ⑥教育・研究及び組織運営に関する自己点検・評価並びに情報提供に関する目標を達成するための措置 | 評価 | 4：中期計画の達成に向け順調に推移している |
|--|----|-----------------------|

○実施状況の概要及び評価

高知県立大学において、全組織が当該年度の目標とその活動報告、次年度の目標を報告するアニュアルレビューを実施し、当該レビューにおいては、主要な部局長のみならず、全教職員が参加できる体制としており、全体で問題意識等を共有できる体制としている。

法人全体において、マイナンバー制度の実施に伴う制度改正や研修などを適切に実施し、個人情報等について、適正な管理・運用ができる体制としている。

その他、高知工科大学、高知短期大学においても、適切な自己点検・評価を行っており、全体として計画どおり進捗していると評価できる。

| | | |
|----------------------------|----|-----------------------|
| ⑦その他業務運営に関する重要事項を達成するための措置 | 評価 | 4：中期計画の達成に向け順調に推移している |
|----------------------------|----|-----------------------|

○実施状況の概要及び評価

新たに運用を開始した永国寺キャンパス教育研究棟においては、中央監視装置を警備室にも増設し、事務職員が不在の夜間、祝祭日等においても、警備員による施設管理が可能な体制とし、学会や公開講座等の実施が容易になるなど、建物を利用しやすい体制としている。

永国寺キャンパスに新たに法人本部の事務機能及び高知工科大学の学部並びに事務機能が入ったことに伴い、新たに産業医や労働安全衛生管理者を選任し、安全衛生管理体制を整備している。

大学ごとに専門性を生かした災害・防災に関する講演会等を開催し、地域の防災意識の向上に寄与している。

その他、3つのキャンパスごとに、防災訓練を実施するなど、全体として計画どおり進捗していると評価できる。

- 3 組織、業務運営等に係る改善事項等
特に改善勧告を要する事項はない。